

僧侶になるってよ

木林嶋

サラリーマン、僧侶への道

お寺で働く事になり、サラリーマン時代と大きく違うと感じたのは「時間」です。当時はとにかく忙しく、合理的に効率よく働く事が求められていました。

今は逆に、毎朝阿弥陀様に手を合わせるお勤めの時間、色々な御相談を聞かせて頂く時間、お掃除をする時間、お花にふれる時間。どの時間も早く済ませるのが良い訳で無く「ひとつずつゆくり丁寧にしましょう。」と住職に教えてもらいました。そういえばこんな考え最近していません。

特に朝の本堂でのお勤めの時間は有意義で、立ち止まり、誰にも邪魔されず頭をからっぽにして自分を見つめ直せる時間になります。そして仏教にふれる事により、嫌な事があってもこのおかげで気持ちも落ち着かせる事ができると実感しました。

小さい現代人にとってこういう時間を作るのはなかなか難しいですが、朝ちよとだけ早起き少し立ち止まってみるのはいかがでしょうか？そこに仏様の「み教え」があると尚素直ですよ♪

◆各SNSで僧侶見習い日記を更新していくのでぜひフォローしてみてください



和尚のこれ
ええよお

第4回

「和風手造りドレッシング
(有)双葉商事 はまゆう」



他のドレッシングが食べれなくなってしまうほど好きです。白ごま派には特におすすめ。私はブロッコリー以外の野菜はこのドレッシングです。(ブロッコリーだけはマヨネーズが好き) 玉ねぎの甘味がすごく効いてるんですよ。原材料は玉ねぎ(国産)、醸造酢、醤油、食用植物油脂(大豆油・菜種油)、白ごま、砂糖、にんにくとこれだけ。難点は、生協かネット通販でしか買えないことですね。近くのスーパーに売ってない。



朝9時頃からお勤めしています。ご命日の方があれば、お名前を読み上げて、日替わりで様々なお経を読んでいます。最近、読経後に、しんぶん聖人の語録を朗読したり。どなたも参加自由、火曜日は休み



おしえて！ 和尚 / 仏事 Q&A 第2回



皆さまからよく寄せられる「仏事、こんな時はどうすれば？」というご質問について、なるべくわかりやすくお答えしていく不定期のコーナーです。

しつもん



法事の日程の決め方について悩んでいます。命日より早めにするほうがいいと言われたのですが...

こたえ



年忌法要の日取りで一番いいのは祥月命日です。それ以外であれば、早くても遅くても変わりません。

法事とは、七きんの

ご命日をご縁として、仏法を聴聞させていただく大切な仏事です。お勤めするのに最もよいのは祥月命日(故人の七きんられたご命日と同じ日)ですが、昨今では土・日曜や祝日以外にお休みを取るのが必ずしもいい方も多くおられるのが実際のところ。そこで皆さん日程を悩まれるわけですが、ご相談いただく際によく聞くのが「命日より遅くなってはいけませんよね...?」という言葉です。なぜ皆さんそう思われているのでしょうか。ためにインターネットで検索してみると、「一般常識的に、命日より遅くなるのは論外」「命日を過ぎてからなんて、故人が悲しみますよ」など、出てくる出てくる...。それゆえ皆さんが「過ぎるわけ

にはいかない」と思われるはずですね。でも、少なくとも浄土真宗では、そういったことは申しません。

そもそも法事は「七きんのために」おこなう、いわゆる追善供養のように捉えられがちですが、浄土真宗の味わいでは違います。七きんは阿弥陀仏の救いによってすでに浄土に生まれ、仏さまになっておられるので、こちらから善を振り向ける必要はないのです。法事はあくまでも、参拝者一人ひとりの「私のために」催される仏教行事なのです。仏さまとなられた七きんを偲ぶ時、七きんは私たちに「いつでもどこでも、どんなことがあっても、けして見放されない阿弥陀さまを拠り所にして、たくましく人生を歩んでくれ。そして、私のいる浄土に生まれ、再び会おうよ」と願われていることでしょう。その原意を聞くのが年忌法要の大切な点です。たとえ命日を過ぎても故人は悲しんだりしません。なるべく祥月命日から離れないように、できるだけ多くの縁者が集まれる日を選ぶといいでしょう。なお、ご希望日時が決まりましたら早めにお寺の都合をお尋ねください。

ゆずり葉の石碑にご縁をいただいている方は、個別で行いたいというご連絡がない限りはひと月ごとに合同で年忌法要をお勤めいたします。お寺のほうで日程を決めさせていただきますので、法要がご命日より前になる方も、後になる方もおられますが、どうぞお気になされませんように。

<参考文献>新・仏事のイロハ 本願寺出版社